

文明の進化と人間力の退化 ー近頃の若い者考ー

北海道大学名誉教授 市川 恒樹

「近頃の若い者は」などと口に出すと、「やっぱりあんたも現役引退の御隠居さんだね」などの冷やかしが入るが、ここはそれ年寄りの冷や水、老軀に鞭打ち、これが嘘偽りのない真実であることを、はたまたこれが歴史の必定であることを、本稿を借りて証明しようと思う。

さて小生昨年まで物理化学などを教えてきたが、学生のレベル低下は年々進み、特にこの数年は落ち込みが激しい。似たような問題を毎年出しても平均点はじわじわ下がるばかりだから、ほとけ心かホットケ心で要求水準を下げて、やっぱりできない。教育貢献やら授業評価やらとかまびす喧しい昨今、「これはしたり」といたく反省し、視聴覚教育が大事と聞けば大枚をはたいて視聴覚教材を買い、ビデオなどを見せて知的好奇心を刺激しようとするが、心地よい薄暗がりの中、しらかわよふね白河夜船と決め込まれ、暖簾に腕押し糠に釘。参加型授業が大事と聞けば、気まぜい静寂の中、無言の行で授業参加する学生に切齒腕腕しても、できないものはできない。

なにができないといったら、まず日本語ができない、長文が読めない。数学ができない、筋道たてて考えられない、因果関係を解きほぐせない、……。でも丸暗記はOK。要するごちゃごちゃ考えるのが苦手、知的持久力が不足。これはすべからず知力トレーニングの不足にあると合点し、すべての授業時間を試験に割り当てれば、知力が確かに付くには付くが、学生の授業評価は最低レベルで、あちら立てればわが身がもたず。そもそも成績がそれほど就職を左右しない本邦では、学生の授業評価などというものは、学生の達成感が高いほど＝教師の要求度が低いほど高くなるものだから、スパルタ知トレに向くはずもない。ちなみに、別の我がカルセン授業（うけ狙いを主目的とするカルチャーセンター風授業）の学生評価は最高レベルだった。

そんなこんなで悩みの多い教師稼業だったが、去ってしまってよくよく考えてみると、昔の若い者と同じ知力や体力（まとめて人間力）を近頃の若い者に要求するのが間違いだと気が付いた。そもそも人の暮らしが楽になるのが文明の進化なのであって、年々歳々暮らしが苦しくなるのなら、これすなわち文明の退化。世の中すべからず便利になり、豊かになり、したくないこと面倒くさ

いことをしなくても、人間力を使わなくても、食っていける、生きていける、暇つぶしさえもできるなら、頭も体もこらえ性がなくなるのがこれ必定。こうしてみると、昔時の若いものより今時の若いもの人間力が劣るのは、これ文明進化の動かぬ証拠。大体「近頃の若い者はねじもろくろく回せない、実験器具も直せない」などと嘆くが、水道の蛇口もワンタッチレバーになった昨今、回さねばならぬねじなどどこにも無いではないか。むしろ、「ねじもろくろく回せないほど世の中を良くしたんだよ」と誇るべき話だ。ゆとり教育が悪い、学校の先生が悪いなどと、学力低下の犯人探しに血道をあげている昨今だが、一番悪いのは文明の進化、自分の生き様だと諦観すべし。古来より「子は親の背中を見て育つ」と言うではないか。学力低下の論拠となっている“OECD生徒の学習到達度調査”の内容を真面目に見れば、家庭でなされる教育努力は調査国中最低だが、小、中、高での先生の教育努力が高いので、世界レベルの学力水準を保っていることがよくわかる。

さて、人間力低下は仕方ないとしても、理工系離れは何とかならないか？ 答えは否。子育ての体験からして、文系を卒業するほうがずっと楽。楽を求めるのが進歩の源泉だから、「ごちゃごちゃした勉強をして理工系を卒業したら楽な生活、リッチな生活が待っているよ」という具合にならない限り、理工系志望者はよっぽどの奇抜な方ということになる。実際「自己アピールだ人付き合いだ起業だ」と学生にけしかける声は聞こえても、「地味に真面目に勉強して知力造りに励め」などという声は、大学でもとんと聞こえない。日本がお手本とする米国を見ても、米国生まれはあらかじめビジネス系に行ってしまう、理工系博士課程などにはほとんど進まない。大手企業の理工系研究者も、その多くが外国生まれだ。いつの日か理工系研究者がイチローや中田のように若人の憧れとなるのを夢見るのが理工系教育者のきが性だが、それはそこかしこに野球部やサッカー部があつての話。生徒が授業でちょっと火傷でもしたら、マスコミが騒ぎ立てたり、親がすぐに実験など止めるといったりする昨今では、知的持久力の向上に役立つかどうかわからない科学手品を除いては、裾野の広がりなど夢のまた夢。

ティータイム

それでもやっぱり日本には理工系の人材が要る。日本を支える理工系学部への入学者をどこに求めたらよいか。答えは外国。聡明でアンビシャスな外国人をどんどん入学させ、日本語でしっかり教育し、日本企業にどんどん送り込もう。英語で教育するなど本末転倒。言葉は見えない足かせだ。教育レベルが高く外国語が不得手な

多くの日本人が国内に腰を据えて国造りに励んだのに、旧宗主国の言葉で大学教育が行われている旧植民地諸国では、教育レベルの高い多くの人材が国外に流出してしまったことを思い起こそう。留学生 30 万人計画やら何やらで喧しい昨今だが、ここら辺を心して対処しないと 100 年の計を誤ることになると思う。